

薬剤とレーザーで叩く 世界初の薬事承認

先頃、化学療法や放射線療法後の再発食道がんに対し、京大の武藤学教授一写真らの研究チームが、薬剤と半導体レーザーを用いた多施設参加の医師主導治験で成果を上げ、世界初の救済治療法として、薬事承認を受けたことを発表した。再発食道がんへの新たな治療法の誕生だ。これが進展すると、他のがんへの応用の可能性も期待できる。

再発食道がんの救済PDT

医療 追跡! 新発見



【がん完全消失88・5%の成績】

この治療法は、注射で体内に入れた薬剤が、食道局所の再発がんに取り込まれて、そこにレーザーを照射することでがん細胞を死滅させる仕組み。従来から「光線力学療法(PDT)」といわれる手法だが、今回、再発食道がんに対して新たな薬剤とレーザーを用いているのがポイント(図参照)救済PDTは薬剤とレーザーのこと。治験では、全国7施設の26人に対して行われ、23人の再発食道がんが完全に消失したと報告。

「88・5%の成績は、驚異的な数字だと自負しています。残りの3症例でも、がんは小さいなりました」

こう話す武藤教授は、同大医学部附属病院がん薬物治療科で、長年研究を行うとともに、再発転移などの食道がん患者を数多く診ている。今回の治療法を思いついたのは、2004年頃のこと。食道がんに対して化学療法を行った後、食道に局所再発した患者の治療法を考えていたときに、ひらめいたという。

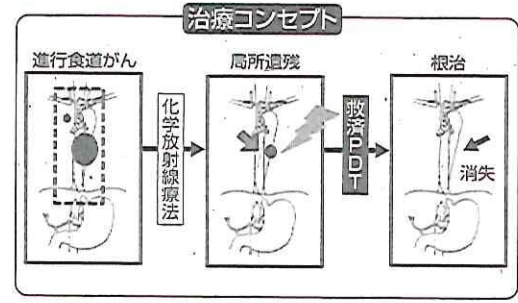
「当時は、再発例に対する手術はリスクが高く、患者さんにも希望がわいていませんでした。」

内視鏡でがんを取る内視鏡的切除でも、取りきれない病変でした。そのとき、光線力学療法で治療できないかと、可能性を探ったのです(武藤教授)

【今年度中に本格治療始動の予定】
10年ほど前には、化学療法後の再発食道がんに対し、光線力学療法を行うという発想はなかった。しかし、目の前には治療法のない患者がいる。武藤教授はチャレンジ精神を発揮し、光線力学療法による再発食道がん治療に挑んだ。

「この1例目で成功したことが、研究を始めるきっかけになりました(同)
食道がんの治療では、手術以外に、化学療法だけでなく、放射線療法も一般的に行われている。しかし、照射線量が決まっているため、放射線療法後に食道がんを局所

再発した場合に、もう1度治療を受けることはできない。武藤教授は、化学療法も放射線療法も適用できない、再発局所食道がんの患者を救うべく奮闘した。その結果、誕生したのが今回の治療法だった。ただし、特殊な技術を用いるため、治験参加の7施設以外に普及するのは、一朝一夕には



「私たちの希望としては、今年度中には治療を本格的に開始したいと思っています。この治療が普及し、さらに研究を進めることで、他の臓器の救済治療法としても応用できるのではないかと考えています」と武藤教授は話す。再発食道がんに対する新たな武器の登場で、がん治療の未来の扉が、また開かれるかもしれません。(安達純子)

菜湯紀

富山県砺波(となみ)市の湯谷(ゆたに)温泉は、1930(昭和5)年に完成した「小牧ダム」を見上げる秘湯。料金は玄関に置かれたカゴに入れる完全セルフサービス。長い廊下と階段を延々と下った浴室の屋根は、コンクリで覆われ、庄川の大水にも耐えられるシェルターのような。

富山県砺波市湯谷温泉 食事自慢の宿「すいげつ」

可動式の湯口からドバドバ湧き出す39度のナトリウム・カルシウム―塩化物泉は、ゆが、重く、真正銘を体感する。加賀料、富山の

5月32日 食付

終活読本

A. 一般的な位、信士・信女で20万―30万円

料金不透明といわれる葬儀費用の中でも特に相場が見えづらいのが戒名代。聞けば「お気持ちで」とお決まりのセリフが返ってくるばかりで、いくら包めばよいものか悩む人も少なくない。

そんな要望に応えて「信士・信女20万―30万円」「居士・大姉30万―40万円」「院信士・院信姉50万円～」とランク別に戒名代を公表する業者も現れ始めた。

最低でも20万円となると決してポン出せる金額ではない。加えて、先代以上の戒名というのが一般的とも

終活 Q&A